



読まな〜で!!

ドクターXの酔いどれ放言

「伸び悩む『伸ばす手』に悩む担当医」

〈終業後 イタリア食堂Nにて〉

！ 新型「ロナ」も5類になって、先生とも堂々と飲めるようになって嬉しんです。

「学会や研修会も対面に戻ってきてるし、実は来週も講演で金沢に行くんですよ」

！ 金沢いいですねー。美術館とかオシャレですし、魚介もおいしいですし。

「街の回転寿司でも、京都の回らない高級寿司レベルの旨さやからね笑」

！ では魚介は金沢にゆだねて、本日は肉とワインにしましょう！

〈牛肉のローストその他で、ロゼワイン一本がほぼ空に〉

？ ところで先生、今回の特集テーマであるアウトリーチってどういうモノなんですか？

「直接担当しないから詳しくは知らんけど、アウトリーチってそもそも精神科に限ったものではなく、そのサービスを受けられない人のために手を伸ばしてサービスを受けてもらえるよう調整する役割のことなんよ」

？ 精神科以外だと、例えば？

「移動スーパ―や配食サービスもそうやし、もつと広げればアマゾンなんかもそう。外出が難しい人でも自宅からクリックひとつで、たいいてい物品が自宅に届くわけやからね。そういうシステムを総称して、アウトリーチって呼んでる」

？ ウチの法人では、どっという運営なのでしょうか。

「多職種が連携して、医者と看護師、作業療法士、精神保健福祉士などがチームを組み、期間限定で調整役を担うってイメージかな」

？ 具体的には何をするんですか？

「患者さんの入院中から、とくに退院前後は密にかかわってスムーズな早期退院につなげたり、退院後の再入院を防いだりしてる。だからこそ期間限定なんやけど、退院された後は、訪問看護や訪問ヘルパーといった



既存のサービスにつながる人が多いようなね」

？ お医者さんの往診とか、訪問看護とかとの違いがまだよく分かってないかも……。

「たしかにややこしいよね。医師の往診は、自力では診察に來れない患者さんを基本的には最期まで診る。訪問看護は、看護師もしくは作業療法士が週2回とかの日時契約で患者さんを訪問する。対して当法人のアウトリーチは、期間限定的ながら入院中から多職種で、もつと臨機応変に動くことができるんですよ」

？ いろんな職種によって、柔軟に手厚く支援できるメリットがあると。今後さらにアウトリーチが増えていくといいですね。

「それが……アウトリーチをチームで継続している医療機関って全国的にも少ないままだね。訪問看護の事業所が増えてるのは対極的かも」

？ メリットがあるのに増えないのはなぜでしょうか。

「多職種チームだけにマンパワーもコストもたくさん必要になる一方で、あんまり収益にならないというか、収支的にキビシインよ。あ、これ言ったらマズかったかな」

？ なのにウチではどうして継続できているんですか？

「患者さんにとって大きな支えになっているのは事実やし、その支えによって早期退院できたり、再入院のリスクが下がったりすれば、それが全体としては能率的な病棟運営という、当院にとってのメリットにもつながるからやるうね」

？ 目先の収支ではなく、大局的な視点から判断しているんですね。

「そうであってもキビシ面があることに変わりはないんやけどね。収益をあまり気にしなくていい国公立の医療機関こそ、もつと担ってくれたらいいんやけど、あまり声高に言うって僕らの立場が危ないので、このへんで失礼させてもらうわ(笑)」

!! 承知しました。アウトリーチに乾杯!!

(当院匿名精神科医X べるぶネオ編集部)